

## 平成26年度第1回津山市行財政改革推進委員会 議事概要

日時：平成26年5月19日（月） 午後1時30分～3時10分	場所：津山市役所2階 第1委員会室
<b>出席者</b> <委員> 鳥越良光会長、坂本道治副会長、藤本貴子委員、菅田茂委員、松本美幸委員、 稲垣聰委員、多田憲一郎委員、小山京子委員、小西治之委員、古金広志委員 <津山市> 宮地市長、大下副市長、田村教育長、常藤特別理事、部長級職員、行財政改革 推進室職員 <傍聴人> 1名	
1 開会 2 市長あいさつ 3 会長あいさつ 4 協議事項 （1）行財政改革後期実行計画の平成25年度実施結果について 事務局：平成25年度実施結果、取組内容を説明。 委員：職員数は類似団体と比較してどうか。市税収納率について、未収の理由とその 対策は。 事務局：職員数は類似団体と比べると若干多めだが、業務の民間委託によりさらに減少 予定であり、これは定員適正化計画を実行しているものである。市税収納率に ついて、未収の理由はさまざまだが、対策として文書催告や財産差し押さえを 積極的に行い、収納率の向上を図っている。 委員：市税収納率をみると、かなりの努力が理解できる。施設の一元管理について、 施設白書の作成は数値化した現状を示すことになり、市民に対しても説得力が あってよいと思う。 会長：成果がみられるものも、まだ取組が必要なものもある。引き続き努力を願う。 （2）第3回津山市版事業仕分けの取組方針実施状況について 事務局：対象事業の実施状況について説明。 委員：全体的に実施速度が遅いと感じた。もう少しスピード感をもった実施が行えな いか。 事務局：公立幼稚園管理運営事業について、国の制度移行完了を待っていたため、今後 は国の動向を踏まえ対応していきたい。 委員：制度移行期間中に市では議論があったか。市独自の動きがあってもよいのでは ないか。 事務局：就学前教育に対するニーズ調査を実施し、今後その結果を受けた施策を組み立 てる予定である。協議の中で市独自の取組についても議論したが、全体の施策 実施に合わせていきたい。 会長：国の施策検討中も津山市の方向性について議論を行い、国の決定を受け即時実 施できる体制ができればよいと思う。また、津山市の方向性と国の考え方に相 違ある場合は、地方から意見するという気持ちをもってほしい。	

委員：社会福祉協議会運営補助金について、財政・運営状況等の適正な把握のため外部監査の実施が必要ではないか。

事務局：法人監査を実施したが、会計制度の改革があり、複雑な会計の見える化に取り組んでいるので、今後改善が期待できる。

委員：幼稚園管理について、職員数削減となったが求められる教育が可能であろうか。

事務局：削減は正規職員についてであり、実際の職員数とは異なっている。

会長：人口対策の観点から、現在の予算配分を再考することを考えてほしい。人口増加に影響を及ぼす施策に予算配分するような動きをみせてほしい。

委員：津山市連合町内会補助金について、自主財源を確保することについて市の関与はどうか。

事務局：活動内容は事業計画書等で精査しており、現状の予算により更なる活動の充実を求めたい。

会長：補助金の見直しにより、無償の活動に対する意識の醸成を行うことにより、素晴らしい津山市の指標となるのではないか。

副会長：人口増加のためにも、地元根差した活動を行っている町内会の役割は大きい。この事業に限らず、予算削減の議論のみでなく、人口増加のための取組も必要で、それが住みよい地域づくりに繋がるのではないか。

会長：行財政改革で無駄をなくし、それを成長戦略や子育て等有効な手立てへ充当することを同時進行で行わねばならない。

委員：削減した財源を前向きな事業に充当する、お金が出るという考え方ではなくどう使うかであるから、削減したもののみでなく、充実させたものがあるといい。

委員：公立幼稚園の職員数について、ニーズに合った人員確保が出来ていない実態にあるが、雇用という観点から今後も労働者の働き口を確保願いたい。

### (3) 第4回津山市版事業仕分けの実施について

事務局：今年度実施予定の日程、内容等について説明。

委員：対象事業数が以前の開催時と比べて減少するが、今後も行財政改革を推進する市の姿勢との関連をどう考えるか。

事務局：市版事業仕分け、内部点検や予算要求基準縮小の結果、従前の課題はおおむね整理され、また事業見直しの考えも浸透してきている。市版事業仕分けでは、今後事業効果に焦点をあて、関連事業を比較することを考えており、結果予算の再配分や市民の方々からの意見をさらに施策に反映することも可能と考える。

委員：関連性をもつ事業を束にして考えていく段階になったということか。

事務局：そういった対象事業選定を従来の選定方法に加えて行い、また協議、判定いただく内容を現状についてではなく、市から改善提案を行い審議いただきたい。

会長：関連のある事業を束にすると、それぞれの効率性や実施意義を協議できるのではないか。

委員：行財政改革というと削減ばかりという印象もあるが、事業を束でみていけば新しい事業への発想も出ようし、そういったところを市民の方々にもみていただきたいと思う。

会 長：事業仕分けを実施する団体は減少傾向だが、流行に流されず足元をみて、市民参加で、市民の目で、所管ごとの縦割りではなく全体を見通した実施が必要だ。お祭り騒ぎで終わることのない様、しっかりした準備等に努力してほしい。

委 員：以前の事業仕分けでの、市民への対象事業募集の結果はどうであったか。

事 務 局：新聞等で募集したが、応募者は2名であった。今回、市民評価委員依頼時に同封するアンケートには、以前対象となった事業リストを添付し、分かりやすい内容としたい。

委 員：アンケートへ回答しづらいと思うので、回答しやすい工夫が必要だ。

会 長：開催日も決定しているので、十分な準備を行ってほしい。

#### (4) その他

なし

#### 5 閉会

副会長あいさつ